

サポクラ 通信

令和3年(2021年)11月号

今月の内容は...

- ・動物と寝室1
- ・初めての大型動物飼育4
- ・円山のアジアアロワナを
もっと楽しむために8
- ・翼に注目12
- ・干支展を開催します15

動物と寝室

円山動物園サポートクラブのみなさま、いつもありがとうございます。レッサーパンダとヒマラヤグマを担当している大野です。今回は担当動物の寝室についてのお話です。

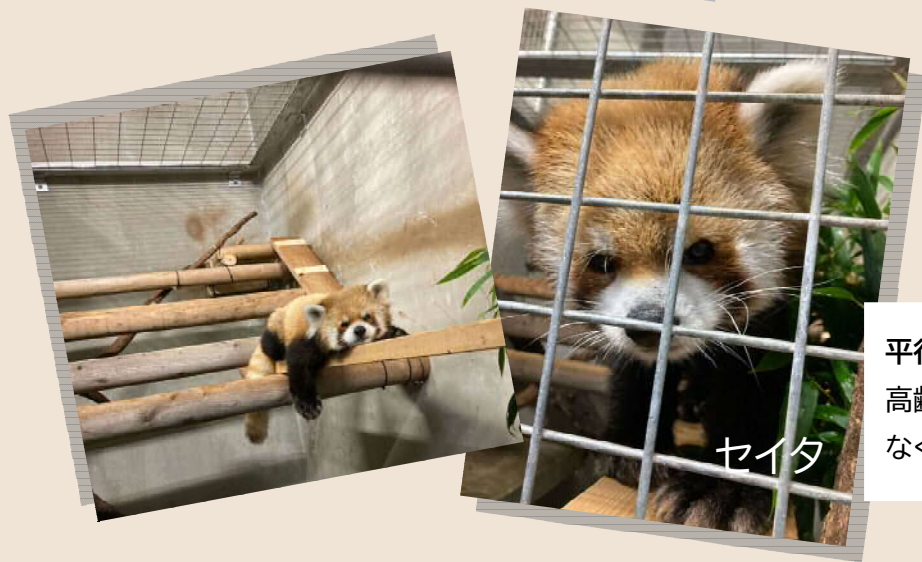
寝室の重要性

動物園の動物のなかには、獣舎からの逸走などの観点から、観覧時間以外に寝室へ収容されるものもいます。そうした動物は1日の大半を展示場ではなく寝室で過ごします。展示場にいる時間はせいぜい8時間。残りの16時間を寝室で過ごすのです。だからこそ寝室は本来ならば展示場よりも快適な空間を提供していかなければならないと考えています。円山動物園は冬の期間が長いため、展示場が寝室を兼ねている動物舎も多くありますが、私の担当するレッサーパンダとヒマラヤグマはどちらも夜間は寝室へと収容しています。そこで4月より寝室の作り込みに重点を置き取り組んできましたのでご紹介します。

レッサーパンダ

角材の部屋

主に若い個体を使うため角材をたくさん張り巡らした部屋となっています。



平行の部屋

高齢個体のため、なるべく傾斜をなくし上り下りに配慮した部屋

丸太と巣箱の部屋

箱の中で休息できるタイプ



ヒマラヤグマ

ハンモックのある部屋

寝てくれるのを期待して設置してみたのですが、
いまのところ、たまに乗っかっているだけみたいです。
今後に期待しています。



遊び部屋

木を削ったりするための部屋。最近はこちらがお気に入り
で、消防ホースや麻袋を寝床にして寝ています。



展示場は…

立木を配し自然風にしています。
ハンモックを設置してみたものの通り道と
なってるだけなので今後改良が必要かも…



- ▲ どの部屋も実はまだまだ未完成。
寝室は非展示となっているため、お見せすることはないのですが、
動物たちが快適に暮らせるよう、これからも日々工夫を重ね改善していきたいと思います。



エイタ

初めての大型動物飼育

こんにちは！

9月の終わりころから新しくアジアゾウ担当となりました、沖野と申します。私事ではありますが、ゾウの前は約2年半、主に小動物を担当しておりました。今回のサポクラ通信では、私がゾウ飼育に携わる中でびっくりしたことを含めながら、ハロウィン前後の出来事をご紹介していきたいなと思っています。

いつも見てくださっている方にとっては、「そんなこともう知ってるよ〜」なんて方もいらっしゃると思いますが、どうぞ新鮮な気持ちで最後までお読みいただくと幸いです(笑)

ゾウの体は大きい！①

2回目ですが、以前は小動物を担当しておりました。

モルモットやウサギ、プレーリードッグなどなど…

つまり、体の大きさが全っ然違う！！！！

体が大きいということは、それだけ

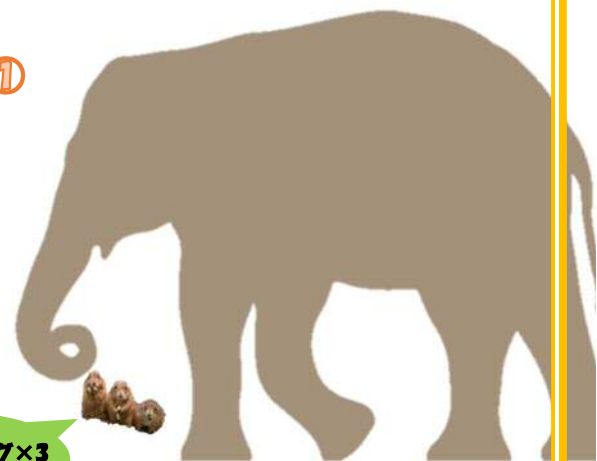
たくさんの食べ物を食べなければ

健康な体を**維持**することができません。

そして、たくさん食べるということは、

もちろん**うんちもたくさん**出てきますね。

食べ物の準備もうんちのお掃除も、すべての量と重さが桁違いです。



<女性飼育員の顔より大きなゾウのうんち>



<爪の先と同じくらいのウサギのうんち>

その差は一目瞭然ですね！

ゾウの体は大きい!!!②

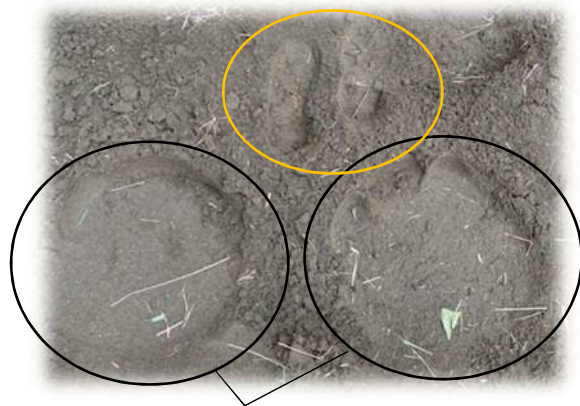
当園でのゾウの飼育は、“**準間接飼育**”という方法を取り入れています。

簡単に言うと、ゾウには直接触れず柵越しに**ゾウと飼育員両者の安全を守りながら**飼育する方法です。

そのため、ゾウがいる獣舎に飼育員が入ることはありません。

隣に並んで写真を撮ることはできませんが、たまたまいい感じの足跡[🐾]があったので、いい感じに写真を撮ってみました。

私の足跡(size : 24 cm)



パール(メス)の足跡
(size : 43 cm)

当園にいるゾウのうち1番体が小さいメスのニンヤインでも、その体重は**2トン**を超えます。

大きな重たい体を支えるのは、太くて立派な**4本の足**です

単純計算で**足1本につき500kg**を支えているわけですから、とても大きな円柱状の形をしています。重みを支えるには、**円柱形**が力学的に最良のようです。

自分の体に合わせて、動物は様々な**進化**を遂げていく。すごいことですね。

ここからは…

最近の出来事をサラッとご紹介していきます。

当園でゾウ会議が開催されました!

1年に一度、**全国の動物園**にいるゾウの飼育関係者が集まり、

ゾウを**健康に**飼育、展示しながら

事故や危険を防止するための技術や知識の共有を図ります。

新型コロナウイルスの影響により1年延期となりましたが、

今年は円山動物園が**開催園**となり、

リモートではありましたが、無事に2日間の日程を終えることができました。



<他園館のゾウ飼育担当者とリモートで情報共有>



<円山からは2名が研究発表を行いました>

自園がゾウ会議の開催園になるなんて、

数十年に1度あるかないかの確率です。

私がアジアゾウ担当となったこの年に、様々な研究発表を聞くことができ、

開催園としての大変さに触れることができたのは、

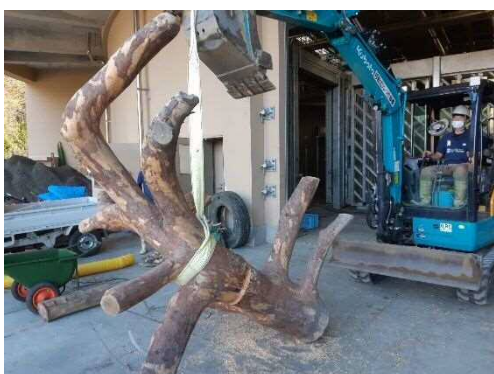
本当に幸運で貴重な経験でした！

たくさん勉強になりました。

他にも…

体をこするための大木を獣舎に設置しました。

これがまた大変な作業なんです！



重機で持ち上げて～



みんなで試行錯誤しながら
獣舎に取り付けます。
事故があっては困るので、
細部までしっかり確認！



左右に体をゆすって
木にこすりつけています！

**野生下での行動を、飼育下で
発現させることができました～！**

なぜ体をこすりつけるのかというと、
ゾウの**皮膚の健康を保つため**に必要な不可欠な行動だからです。

古い角質を落とす

寄生虫から身を守る

感覚器としての皮膚を敏感にさせる

様々な役割を持つ皮膚を、**ゾウ達も自分でケア**していかなければなりません。
そのために必要な**自然界**では当たり前に行っている3つの工程がこちら。



<水浴び>



<砂浴び>



<体こすり>

メス側には体をこすりつける擬岩などがありますが、
非公開エリアのオス側にはあまりありませんでした。

そこで、オス側にも体をこすれるものを！という計画で設置したのが今回の大木です。

設置したその日の夜から早速体をこするために使ってくれていました。

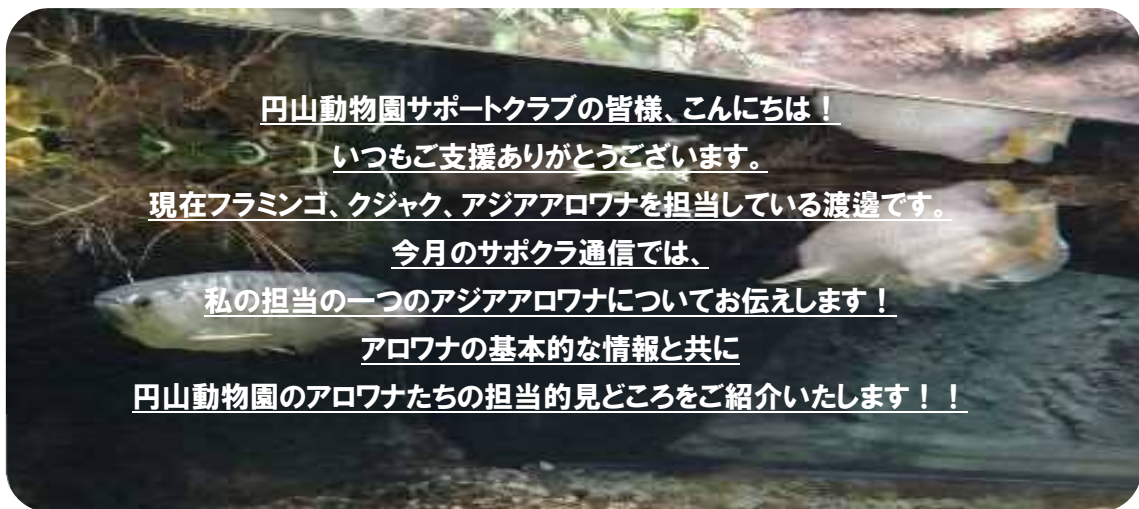
野生下での本来の行動を引き出すことができ、アジアゾウ担当者一同うれしく思っています。

このようにアジアゾウ担当になって
あっという間に
もう少しで2か月になります。
これからも筋トレのような毎日を
全力でこなします！
今後とも、4頭のゾウを
温かく見守っててください♪



(ちなみに5分後)





円山動物園サポートクラブの皆様、こんにちは！
いつもご支援ありがとうございます。
現在フラミンゴ、クジャク、アジアアロワナを担当している渡邊です。
今月のサポクラ通信では、
私の担当の一つのアジアアロワナについてお伝えします！
アロワナの基本的な情報と共に
円山動物園のアロワナたちの担当的見どころをご紹介します！！

●アロワナ基本情報

アロワナは、アジアアロワナを含めて世界で5種類います(アジアアロワナの東南アジア以外の生息地は南米とオーストラリア)。アロワナ目という目に属していて、アロワナ目の魚には2つの特徴があります。①両顎に歯があること②発達した歯がある舌(基舌骨)を持っていることです。

●餌

アロワナは肉食です。上記の口の仕組みを使って、餌を食べる時は飲みこむように獲物を口内に送りこみ、口内に捕えたところで両顎の歯を使って食べます。動物園では、一般的に売られている魚用の人工飼料を主に与えています。アロワナは視力が発達しており、見つけた獲物に向かって瞬時に突進します。アロワナのそのフォルムはその時に速さが出るフォルムにもなっています。

★円山動物園では不定期に週に2～3回給餌をしています★

★餌を与えようとする

気配や音、目で気づいて寄って来ます→



●ヒゲ

アジアアロワナには二本のヒゲがあります。このヒゲはセンサーの役割があり、餌を探すためや周りの環境を把握するために使われていると言われています。そしてこのヒゲは、アジアアロワナの健康や心理的コンディションを知る一つの方法にもなります。ヒゲの張り具合や横から見た際の角度でそれらをチェックできます。

健康時：横から見てピンと張っている、ヒゲが 20 度程上向きになっている

不健康時：ヒゲの先端が力なく下向きまたは横に曲がる

★円山動物園でアロワナ観察をする時は、是非ヒゲの具合もチェックしてみてください★

●オスとメス

アジアアロワナの雌雄を見ただ目で判別することはなかなか困難とされています。雌雄判定をする際のポイントが一応いくつか存在し、その一つに正面からの顎の形で判別するものがあります。アロワナの子育ては、オスがメスの産んだ卵(パチンコ玉サイズ、40～50 個ほど)を口の中でおよそ 40 日間くわえてふ化させます。そのため、卵がくわえやすいようにオスの下顎はメスと比べると左右に四角く張り出している傾向があります。しかしこの方法も他の方法も個体差があるので、なかなか難しいようです。

★担当も観察していますが正直よく分かりません・・・★

●円山のアジアアロワナ

円山動物園のアジアアロワナたちには名前はありません。厳密には名前の代わりに番号があるのですが、体内に埋め込んだマイクロチップを専用のリーダーで読み込まなければ分かりません。水中で暮らすアロワナにその作業は簡単には行えません。また、アロワナの肉が肉厚なのか、過去に死んだアロワナにリーダーが上手く反応しないこともありました(困みにその時は、獣医さんが死んだアロワナの肉を薄切りにし、チップを読み込みました)。名前がなく、複数で飼育している場合は日常的な飼育管理がしにくいです。そのため私が担当になってからは、見た目の特徴と私が個人的につけた非公式な愛称で個体を識別し、日常の管理をしやすいようにしています。



- アーちゃん
- ヒシがオレンジ
- ワーちゃんと仲良し
- 担当が観覧通路から近づくと目の前で止まって静止してくれる率が高い



- ローちゃん
- 上半分が黒い
- だいたい1匹で泳いでいる



- ワーちゃん
- ヒシが黒で所々オレンジ、赤っぽい
- アーちゃんと仲良し

★アーちゃんとワーちゃんはよく一緒に泳いでいます★

ローちゃんはいつも1匹で泳いでいます。立場的にちょっと弱いようです。



仲良し過ぎてピッタリ寄り添って泳いでいる時もあるので「あれ！？1匹いない！？」となることも

●魚なのに声がる！！！！？？？

アロワナ獣舎でアロワナの飼育作業をしていると「エーッ！エーッ！！」と聞こえてきます。これは隣のカワウソの鳴き声です(餌の催促)。水槽内はアロワナとカワウソで区切られています。そのため両者が同じ空間に一緒にいることはありませんが、アロワナの奥にそこを泳ぐカワウソを観察することができます。

★熱帯雨林館内が静かだと、観覧通路側でもカワウソの鳴き声を聞くことができます★

アロワナ獣舎内

から観覧通路を撮影



ゴツメカワウソのサン



初めて魚類の飼育担当になりましたが、魚もそれぞれ性格や癖が違って面白いです。

これから冬になって寒くない雪も降りますが、熱帯雨林館内は暖かいので、

館内で暖を取りながら、是非今月のサポクラ通信の内容を思い出して皆様もアロワナを観察してみてください！

●熱帯鳥類館から新着情報！

～フラミンゴの屋内飼育が始まりました！～

冬になるため、10月30日からフラミンゴの展示方法が屋外から屋内へと切り換わりました。そして実は、バードホール内のフラミンゴ用のプールはこの夏にリニューアル！以前のプールはプール内の傾斜や塗装、餌をつける餌台がフラミンゴの脚には使いづらいものでした。その為か旧プールでは、プールの使用率があまり高くありませんでした。改良した新しいプールはたくさんのフラミンゴが使ってくれるはず！と期待した担当とは裏腹に、まだ1羽もプールに入っていません(11月13日時点)。毎年使っていた、見ていたプールとは違うため警戒しているようです。今はプールに入ってくれるよう日々試行錯誤中です。

～オオジシギの展示が始まりました！～

11月6日からバードホール2階の獣舎で、オオジシギの展示を開始しました。オオジシギは渡り鳥で春に北海道にやって来て、札幌でも観察することができます。しかし近くでじっくり観察することは難しく、飼育すること自体も非常に難しい鳥です。是非この機会に見に来てください！





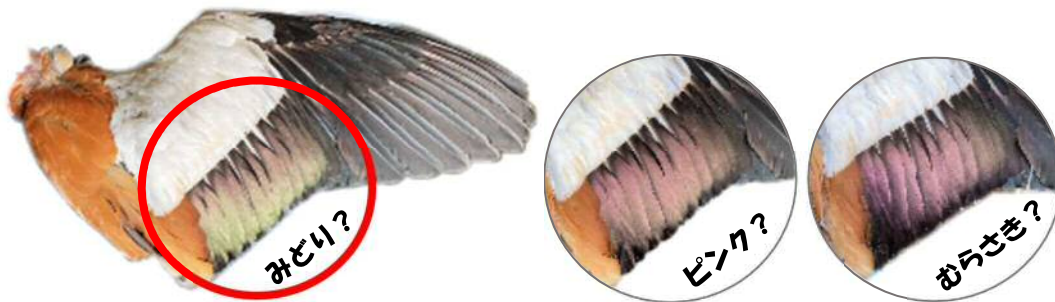
翼に注目

サポートクラブの皆様、こんにちは！
エゾシカ・ペンギン・水鳥担当の三浦です。
サポクラ通信の執筆を担当するのは2回目となりますが、今回は鳥の翼についてお話し
たいと思います。

アカツクシガモの羽は何色？

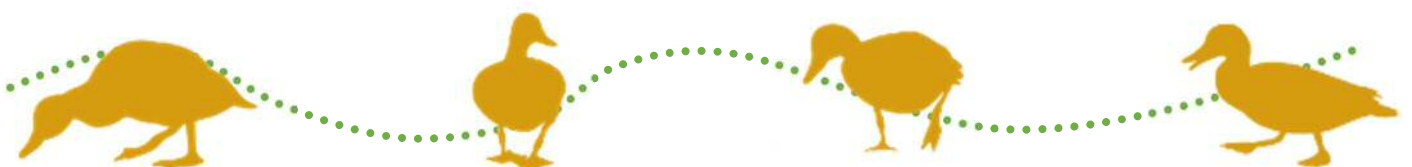


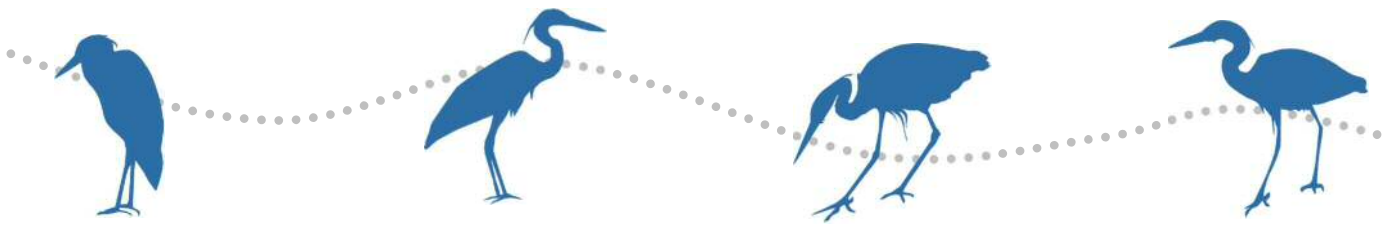
小麦色の羽が特徴的なアカツクシガモです
が、次列風切羽は光の角度によって色が違って見える構造色にな
っています。これは『翼鏡 (よくきょう)』といい、カモの仲間によくみられる特徴で
す。



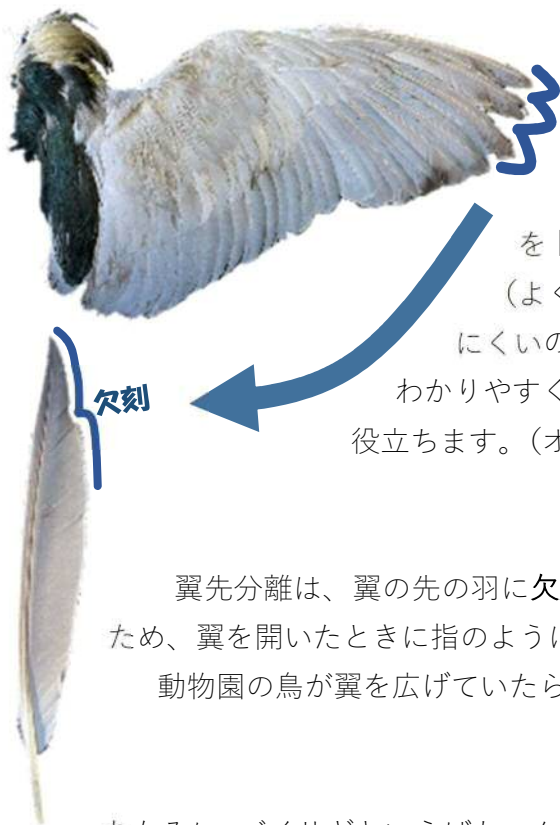
アカツクシガモの場合は、緑色に見えたりピンク色に見えたり紫色に見えたりします。
暗いときや地面で休んでいるときは見えにくいです。

これから冬鳥がやってくる季節になり、たくさんのカモ類が池や川で見られると思う
ので、カモ達の翼鏡の色の違いにも注目してみると面白いと思います！この冬はぜひ、
動物園のアカツクシガモと、野生のカモ達を見比べてみてください！





ゴイサギの翼に指がある？

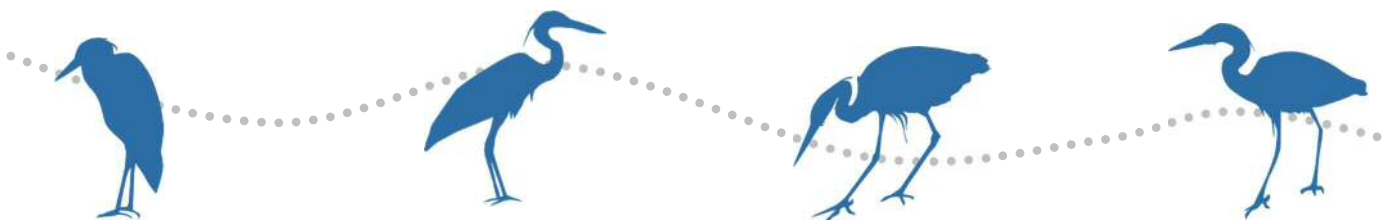


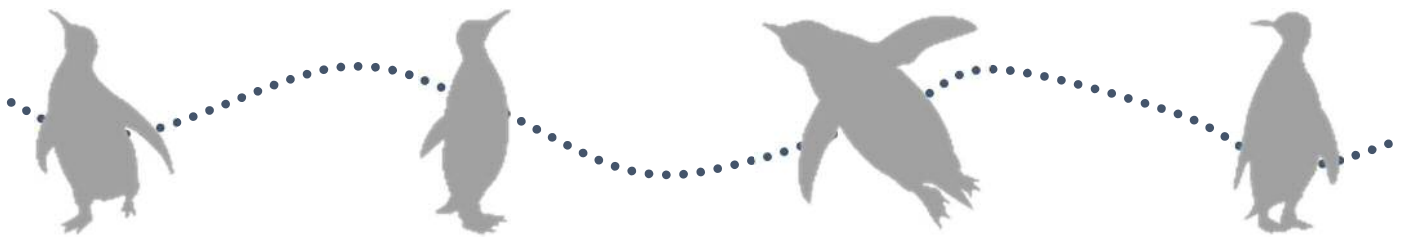
鳥の翼をよく見てみると、指のように分かれています。この部分のことを『翼先分離 (よくさきぶんり)』もしくは『翼指 (よくし)』といいます。ゴイサギでは少しわかりにくいのですが、オオタカやノスリなどの猛禽類ではわかりやすく、種によって分離の数が違うので、識別にも役立ちます。(オオタカは6枚、ノスリは5枚 etc…)

翼先分離は、翼の先の羽に欠刻という羽の一部が欠けたような部分があるため、翼を開いたときに指のように分かれて見えるのです。

動物園の鳥が翼を広げていたら、“指”があるかチェックしてみてください！

ちなみに、ゴイサギといえばちょんまげのような後頭部の飾り羽が特徴的ですが、換羽が終わった今の時期は“ちょんまげ”も抜けてしまい、ちょっとだけさみしくなりました。また来年の繁殖期に、かわいらしい飾り羽をチロチロたなびかせてほしいですね…。





10月23日に、サブ放飼場にいたフンボルトペンギン4羽（海次、カイト、ゆあ、アオイ）を、メイン放飼場へ移動しました。

というのも、もともとサブには♂3羽♀2羽の計5羽のペンギンがおり、海次・ユキペアの繁殖のためにメインとは別で飼育していました。

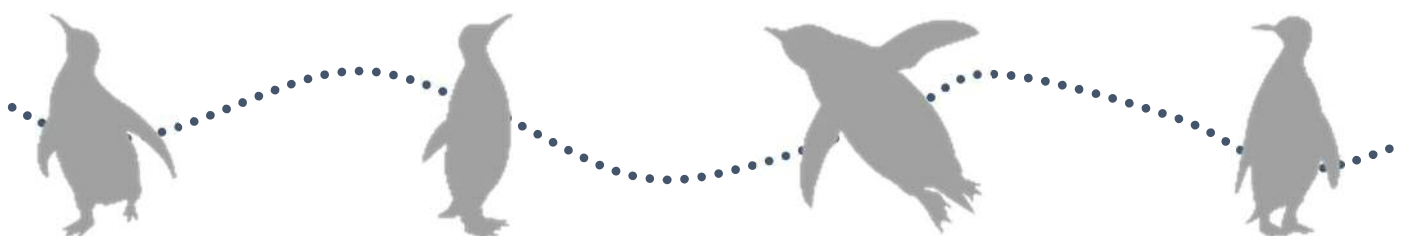
ところが、9月26日にユキ♀が腹膜炎で亡くなってしまったため、円山動物園で繁殖可能なペアがいなくなっていました。

さらに、大きな群れで生活するフンボルトペンギンにとって4羽という羽数は少なく、サブ4羽の関係が崩れ始め、闘争が起こるようになりました。時には、出血することも…。

そこで、残された4羽をメインへ移動し、全羽メイン放飼場で飼育することになったのです。

最初はメインのペンギンたちに追いかけまわされたり、威嚇されたりしていた元サブ4羽ですが、1週間ほどで群れに慣れ、今ではメインのペンギンたちを押しつけて餌を食べに来るほど活発に過ごしています。

まだ寝室の巣箱には入れていないので、冬に備えてそろそろ巣箱に入る練習をしたいと思います。



干支展 を開催します

円山動物園サポートクラブのみなさま。
はじめまして、動物解説専門員の楊と申します。

今年も毎年恒例の干支展を開催します。令和4年は寅年なので、トラにちなんで円山動物園にいるネコ科動物の「ライオン」「ユキヒョウ」「サーバルキャット」に関する展示を行います！もちろん、野生に生息するトラの生態や人との関わりについての解説もありますよ。

また、今回の干支展もより多くの方々に楽しんでいただけるよう、パネル展示のほかに、ネコ科動物のぬりえやクイズ等をご用意しております。クイズに参加してくださった方には70周年記念グッズをプレゼントいたします。

みなさまのご来園をお待ちしております！

【日程】 2021.12.3(金)～2022.1.4(火)

【場所】 動物園センター内 情報ホール

パネル展

ネコ科動物について知ろう。
環境破壊をなくすために、みんなが何をしているのか教えてね！

スマホでクイズラリー

ライオン、ユキヒョウ、サーバルキャットに関する3択クイズの二次元コードを各獣舎に設置。
動物園センターにて、クイズに参加してくれた人に景品をプレゼント！(正月三が日限定)

絵馬プレゼント

干支にちなんだデザイン。各日先着300名様(正月三が日限定)
配布場所:第一レストハウス

ぬりえ

令和4年の干支である「トラ」のぬりえを用意してあるよ。
おうちに持って帰って色を塗ってみよう。